

Young Adult Books Best Selection

2020年7・8月号 水巻町図書館

さあ～、夏休み！！でも、今年の夏休みはちょっとちがう・・・。
授業だってあるし、テストだってある。だから、本を読みたくても読む時間がない！それでも本を読みたくなる時だってある！
そこで、今月号は本を手にとってみたくなくなった時に参考になればと、第一回からの本屋大賞受賞本を集めてみました。

そもそも、 「本屋大賞」ってどんな賞？

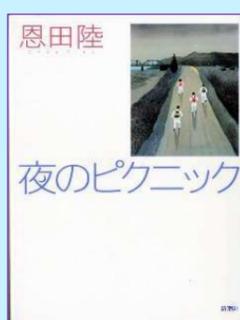
“売り場からベストセラーをつくる！”という旗印のもと、全国書店員さんが選んだいちばん売りたい本！に選ばれたのが『本屋大賞』です。過去1年間に刊行された日本の小説の中で、書店員さんが自分で読んで「面白かった」「みんなにも薦めたい」「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票します。つまり、書店員さんの投票だけで選ばれる賞なのです。

第一回（2004年）



はかせ
博士の愛した数式
小川洋子／著
「80分しか記憶がもたない」博士、家政婦とその息子。数学を通して心をかよわせていく優しさのあふれる穏やかな日常に涙してしまいます。

第二回（2005年）



恩田陸
夜のピクニック
恩田陸／著
「夜行祭」という高校生最後の行事が舞台の話。お互いが不器用なために伝わらない純粋な思い。優しい、豊かな友情。80Kmを歩いた最後に見えたものは...

第三回（2006年）



東京タワー
オカンとボクと、時々、オトン
リリー・フランキー／著
イラストレーター、デザイナー、俳優など色々な場面で活躍しているリリー・フランキーが自分の半生を振り返り、母親との思い出を描いた小説です。

第四回（2007年）



一瞬の風になれ
佐藤多佳子／著
サッカーに限界を感じた新二が、幼なじみでやる気のない天才スプリンター連と同じ高校陸上部に入部する。それがすべての、始まりだった。読んでいて応援したくなる二人がそこにいます。

第五回（2008年）



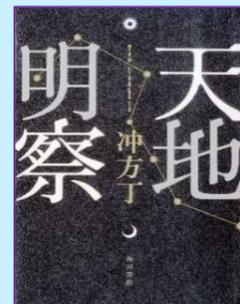
ゴールデンランバー
A MEMORY
伊坂幸太郎／著
オレはどうなってしまったんだ？いつの間にか首相暗殺の犯人に仕立て上げられていた主人公。誰が敵で誰が味方かもわからない、最後までハラハラドキドキの小説です。

第六回（2009年）



告白
湊かなえ／著
終業式の日教師からの娘の死の告白、それに続く教え子からの事件に関わる告白。語り手が語るそれぞれの告白はどこかに嘘がある...

第七回（2010年）



天地明察
沖方丁／著
江戸時代、「日本独自の暦」を作ることに生涯をかけた男がいた。空を見上げ、星を観察し挫折があっても仲間たちと未来に向かって進んでいく姿に心打たれます。

第八回（2011年）



謎解きはディナーのあとで
東川篤哉／著
お嬢様刑事が解けない事件を捜偵志望だった執事が解決していく短編集。テンポよく、ユーモアあふれる会話で、ミステリーを読みながらいけない人も手に取りやすい小説です。

第九回 (2012年)



舟を編む
三浦しをん／著
一冊の辞書が企画されて、世に出るまでの過程を関わる人々との人生とからめながら進んでいく物語。読み終わった後、辞書を手にとってみたくなるかも…。

第十回 (2013年)



海賊とよばれた男
百田尚樹／著
この物語に登場する男たちは実在した。だから、熱い！信念をもって突き進んでいく姿は本当に熱い！授業では習うことのない物語がここにある！

第十一回 (2014年)



村上海賊の娘
和田竜／著
村上海賊の娘(上・下) 和田竜／著
戦国時代に瀬戸内海であばれていた村上海賊。その娘、景をはじめとして登場人物たちがとても生き生きしていて魅力的。楽しく、時にはホロリ...。こんな歴史小説も読んでみてはいかがでしょう？

第十二回 (2015年)



鹿の王
上橋菜穂子／著
帝国から故郷を守るため絶望的な戦いを繰り広げた戦士団「独角」。その頭であったヴァンは岩塩鉱に囚われていた。ある夜、犬たちが岩塩鉱を襲い、謎の病が…。

第十三回 (2016年)



羊と鋼の森
宮下奈都／著
高校生の時、偶然ピアノ調律師と出会って、調律の世界に魅せられた主人公の外村。言葉で伝えきれないなら、音で表せるようになればいい。ただただ静かに物語は進んでいきます。

第十四回 (2017年)



蜜蜂と遠雷
恩田陸／著
ピアノコンクールの2週間の出来事を舞台に、音楽の神様に愛された天才たちが音楽家として目覚め、成長していく物語。『直木賞&本屋大賞ダブル受賞』作品です。

第十五回 (2018年)



かがみの孤城
THE SOLITARY CASTLE IN THE MIRROR
辻村深月／著
学校での居場所をなくし、閉じこもっていたところの目の前で、ある日突然部屋の鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐりぬけた先にあったのは...。自分を大切に生きていくことを教えてくれる一冊です。

第十六回 (2019年)



そして、バトンは渡された
瀬尾まいこ／著
父親が三人、母親が二人。血のつながらない親の間をリレーされ、4回も名字が変わった森宮優子、17歳。だけどいつでも両親を愛し、愛されていた。身近な人が愛おしくなる優しい物語です。

第十七回 (2020年)



流浪の月
凧良ゆう／著
主人公の更紗は小学生の頃に大学生の青年によって誘拐、監禁されるという事件を経験します。『事実と真実は違う』。恋愛小説？ミステリー？一言で「～小説」とは片付けられない余韻が残る物語です。

2020年読書感想文コンクール課題図書 (中学生向け)

* このリスト以外の本でも応募できます



天使のにもつ
いとうみく／著
保育園を職場体験先に選んだ中学2年の風汰。「なんだって、こんなとこ選んじゃったんだろっ」と、保育園の看板に目をやって、ため息をついたこともあったが...。風汰の5日間の物語。



11番目の取引
アリッサ・ホリングスワース／作
アフガニスタン難民のサミと祖父の生きる術であり心のより所だった大切な伝統楽器ルバブが奪われた。買い戻すには1か月以内に700ドルが必要だ。サミは友だちの助けを借りて物々交換を始めるが...。



平和のバトン
～広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶～
弓狩匠純／著
被爆体験証言者の記憶を、1年かけて油絵に描いて記録する、広島の高校のプロジェクト。今を生きる高校生たちが証言者と密に接することで、戦争や原爆を見つめなおしていくさまを綿密に取材して描いたノンフィクション。